



増水により削られた川岸

れが発生し、大丈夫と誤って
たところであっても、流されて
しまうことがあります。

沼や池では

沼や池には流れがないからと安
心はできません。

- ①日の当たらない場所などでは、
今の時期でも氷が張っています。
厚く、乗っても大丈夫そうに見
えていても、真冬とは違います。
②堤防が水を含んでおり、柔らか
く、崩れやすかったり、滑りや
すくなっていたりしています。

水路では

住宅や田んぼの近くなら大丈夫
と思っていませんか。そこにも危

険が潜んでいます。

①幅の狭い水路では、まだ雪で覆
われているところがあります。

真冬であればその上を歩いても
大丈夫ということもありますが、
今の時期だとそうはいきません。

②あぜ道などは水を含んでおり、
路肩を歩くと、滑り落ちる危険
があります。

①、②いずれの場合も水路が浅
ければよいのですが、幅が狭く
てもかなり深いものもあります。
落ちるとその中から抜け出せな
くなるということがあります。

子供を守るのは 大人の「あなた」です

このように危険がいっぱいある
ものの、長い年月を過ごしてきた
大人でさえその危険を忘れがちで
す。ましてや、人生経験の浅い子
供には、この時期の河川の周辺な
どがどれほど危険なものか理解で
きていません。身の危険を知る能
力がまだ備わっていないのです。
そのため、水の怖さを知ってい
る「あなた」が子供にその怖さを
教えてあげるとともに、常々事故
を未然に防ぐ努力をしなければな
りません。そして、未来ある子供
を守り、社会の宝として大切に育
てていかなければなりません。

事故を未然に防ぐために

1. 増水時は大人と一緒にあつても川などの危険な場所へ近づかないようにする。
2. 普段から子供だけでは川などに近づかないよう十分言い聞かせておく。
3. 大人と一緒にいったときには、子供の動きから目を離さないようにする。
4. 川など、危険な場所で遊んでいる子を見かけたら、自分の子でなくても注意をしたり、声を掛けたりする。

万が一にも 事故が発生したら

- ①一人で助けようとせず、近くに
いる人に助けを求めろ。このと
き浮き輪など水に浮かぶものや
ロープの手配、消防署への通報
も願う。
- ②現場にいる人だけで助けなけれ
ばならないときには、できるだ
け川に入ることなく、岸から棒
を差し出すとか、木材などの水
に浮かぶ物を投げ入れてやる。
- ③ロープが近くにあるときや準備
できたときは、浮き輪など水に
浮かぶものを結んで投げ入れて
やる。また、ロープが両岸から
届くようであれば、先回りして
水面上に両岸から張ってやる。
- ④やむを得ず水の中に入って助け
なければならぬときは、溺れ

ている人にしがみつかれて、自
分も溺れてしまうことがあるの
で、十分に注意して行う。この
とき、ロープを体に結び、片方
は何かにつぶとか、だれかに捕
まえてもらう。ロープがないと
きは、浮き輪など水に浮くも
のを持って助けに行く。さらに、
辺りを十分に確認し、可能と判
断できる場所で冷静に行う。

- ⑤消防署から救助隊などが駆け付
けたときには、その指示に従う。

事故が起こったときや

事故を見かけたときは

迷わず

1119番

へ通報してください